

**広島県立福山商業高等学校校舎（1号棟）改築工事
に伴う実施設計業務委託の設計者選定結果について**

1 選定結果

広島県立福山商業高等学校校舎（1号棟）改築工事に伴う実施設計業務委託の設計者選定について、公募型プロポーザルを実施した結果、次のとおり、設計者の候補者として、特定者と次点者を特定しました。

特定者	株式会社 あい設計
次点者	株式会社 村田相互設計

2 審査経過等

(1) 設計者選定審査委員会

専門知識を有する学識経験者、実務経験者、施設管理者及び行政職員等で構成する「広島県立福山商業高等学校校舎（1号棟）改築工事に伴う設計者選定審査委員会」（以下、「設計者選定委員会」という）を設置し、技術提案書の特定等に係る審査を行いました。

[設計者選定委員会委員（順不同・敬称略）]

委員区分	氏名	役職等	審査の視点
委員長	平野 吉信	広島大学大学院工学研究院 教授	建築計画
委員	亀谷 清	公益社団法人日本建築家協会中国支部 副支部長	建築デザイン
委員	杉田 輝征	公益社団法人広島県建築士会 常務理事	建築デザイン
委員	島村 隆義	国土交通省中国地方整備局営繕部 整備課長	営繕行政
委員	三好 豊彦	福山市建設局 建築部長	まちづくり
委員	河原 直己	広島県土木局 建築技術部長	建築行政
委員	朝倉 一隆	広島県立福山商業高等学校 校長	施設管理者

(2) 審査概要

ア 技術提案書の提出者の選定（一次審査）

13者から提出された参加表明書を審査し、参加資格等の確認と共に、技術提案書の提出者の選定（10者選定）を行いました。（10者選定のうち4者が技術提案書の提出を辞退）

イ 技術提案書の特定（二次審査）

6者から提出された技術提案書を審査し、技術提案書の特定（特定者1者及び次点者1者）を行いました。

[審査経過]

平成25年6月6日	第1回設計者選定委員会	・審査基準の策定
平成25年6月13日	公募型プロポーザルの公告	
平成25年6月26日	参加表明書の提出期限	・提出者13者 (内、設計共同体1者)
平成25年7月5日	第2回設計者選定委員会	・技術提案書の提出者を選定（10者）
平成25年7月24日	技術提案書の提出要請	・提出要請10者 (内4者が技術提案書の提出を辞退)

平成25年7月17日	技術提案書の提出期限	・提出者6者
平成25年8月12日	第3回設計者選定委員会	・公開ヒアリング ・技術提案書の審査、特定
平成25年9月上旬	設計業務委託契約締結 (予定)	

3 技術提案書の講評

(1) 総評

今回のプロポーザルは、昭和39年の創設以来、半世紀の歴史をもつ商業科専門高校の管理・普通・特別教室棟を建替えるための技術提案を求めたものでした。

技術提案書の特定にあたっては、業務の理解度及び取組意欲、業務の実施方針及び2つの特定テーマに対して技術提案書の審査やヒアリングを実施すると同時に、提出者の技術力、技術者の資格、技術力を考慮した総合的な評価を行いました。

特定テーマの“社会で活躍する人材育成の場として、生徒の創意工夫を引き出す施設づくりのあり方”は、商業教育のための実践の場や体験・交流、コミュニケーションのための場の提供といった視点で、また、“地域の高等学校としてふさわしいランドマークのあり方”は、景観、交流、地域の顔や災害時の避難施設といった視点で、各者の思いを反映した意欲的な技術提案となっていました。

(2) 特定者

特定者の技術提案は、特に業務の理解度及び取組意欲について高く評価されました。

また、技術提案に加えて技術者の資格や実績を含めた総合力により特定されたものです。

特定テーマの「社会で活躍する人材育成の場として、生徒の創意工夫を引き出す施設づくりのあり方」に対して、「商い」を人と人とのコミュニケーションにより成立するものと捉えたうえで、中庭等を活用した多様なコミュニケーション空間を設け、商業実践教育の実現の場を提供することで、人材の育成と生徒の創意工夫を引き出す施設とする提案が評価されました。

さらに、中廊下を併用することで校舎の長さを短くして、既存体育館との関係性を考慮した点も評価されました。

また、与条件等をしっかり捉えて的確にまとめられた練度の高い提案であるという意見もあった一方で、もうひとつの特定テーマである「地域の高等学校としてふさわしいランドマークのあり方」については、簡潔すぎるという意見もありました。

総じて、設計業務上のパートナーとして、総合的に高い評価を得たものです。

(3) 次点者

次点者の技術提案は全体的に高い評価を得ており、特に業務の実施方針と2つの特定テーマは高く評価されました。

特定テーマ、それぞれに対して、明快な考え方が提案されており、いずれも高く評価されました。

2つの特定テーマに対して、「見る・見られる」ことで成長できる、地域に開かれ貢献できる教育施設という提案をうまく具現化していた点、また、ランドマークのあり方についての的確にまとめられていた点が高く評価されました。

また、多くの事例調査に基づいた豊かな空間となっていた点や、実践室を中心として活気ある空間が提案されていた点等が評価されました。

総じて、設計業務上のパートナーとして、高く評価される提案でした。